



日章学園九州国際高等学校校長便り 長月

建学の精神：道義に徹し、実利を図り、勤労を愛す

学園スローガン：やり抜く力

学校教育目標：国際的視野と人間性豊かな心を持ち、自ら学び考え、自己の課題を解決できる生徒を育成する。

令和3年(2021年)9月1日(水) 校長 屋田伸仁



オリンピック vs セミ

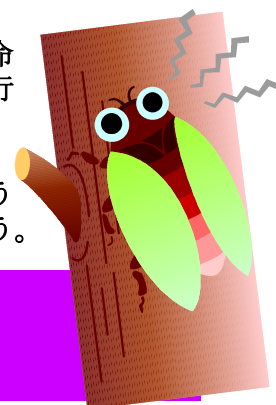
今年の日本の夏は、コロナ感染急拡大と長雨による洪水被害に見舞われました。その一方、オリンピック観戦で感動をいっぱいもらいました。日本選手の大活躍で金27、銀14、銅17のメダルラッシュでした。コロナ禍で、オリンピック中止の世論の声もあったり、大会に向けた練習機会や環境も十分でなかったりした中で、苦しみに耐え、闘い抜いてきたんだなあと知ると、頭が下がり、胸も熱くなりました。期待した選手の予想外の結果もありましたが、新しい競技で、若い選手も次々に育ってきています。頼もしい限りです。3年後はいよいよパリ。日本選手の更なる活躍が楽しみです。



さて、学校の校庭では蟬の元気に鳴く声が一日中聞こえます。心理学者によると、日本人と西洋人は虫の鳴き声を聞く脳が違うらしいのです。西洋人は右脳で聞くので、雑音や騒音に聞こえ、日本人は左脳で聞いて、意味を感じる。だから、日本人は季節や自然への感性が豊かになり、短歌や俳句をつくることができるらしいのです。

ところで、セミの仲間に、「つくつくほうし、つくつくほうし」と鳴くセミがいます。左脳で聞くと、意味のある鳴き声に聞こえます。「つくづく欲しい、つくづく欲しい」と聞こえます。何をつくづく欲しいのか。命です。セミは、7年から8年という長い間、土の中で過ごし、地上に出れば、1～2週間の短い命です。自分の残り少ない命を知って、「つくづく命が欲しいよ～」と鳴いているように聞こえます。また、一方で、長い、長い土の中の下積み生活を終えて、命の輝きを元気いっぱいに放っているようにも見えます。そこは、長い忍耐と努力を行ったオリンピック選手の姿と重なります。「命の限り最後までがんばって！」とセミを応援したくなります。

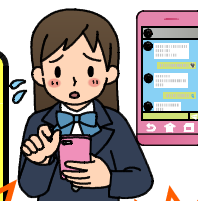
残暑厳しい中、9月がいよいよスタートしました。オリンピック選手やセミのように、生徒の皆さんも、ひたむきに努力を積み重ね、実り多い学期にしていきましょう。



天網恢恢

ある調査によると年間を通して、いじめや自殺が多いのは夏休み明けの9月のこの時期です。夏休み明けで、学校の生活リズムに慣れない、心もからだもだるい、いらいらする、そういうところでいじめは起きやすいのかもしれませんが。そこで、開講式ではいじめ問題について話しました。

- ① いじめは人間として絶対に許されない行為である。
- ② 学校や先生はいじめられた子どもを守る。いじめを見た人は親や先生に知らせる。
- ③ いじめは一人で悩まない、苦しめない。人に話す勇気を持って欲しい。
- ④ どんなことがあっても、自ら自分の命を絶ってはいけない。
夢や未来、将来の幸せを考え、命を大切にしたい。



本校では、学校生活アンケート調査や教育相談週間を定期的実施して、いじめの早期発見、早期解決に努めています。最近はネットいじめが問題化しています。いじめをやる人はなりすましや偽名を使えば、ばれないと思ってやるのかもしれませんが、トラブルになって、必ずばれます。

「天網恢恢」という四字熟語は、「天網恢恢 疎にして 漏らさず」という「老子」のことばから来ています。天の網は広くて、大きくて、目が粗いが、悪事は絶対見逃さない。必ず、網で捕まえて、漏らすことはない。悪いことをすれば、天罰が下りるという意味です。最近は監視カメラが到る処に設置され、犯人逮捕のきっかけになっています。まさに「電網恢恢」です。SNSを利用するときは、善悪の判断や自制心をしっかり持って欲しいと思います。

